

民主島根

2021年
9.26
第1392号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

共産党躍進、野党連合政権実現へ 「地球を守る」ため大平前衆議院議員 議席奪還を

松江 山下副委員長、大平氏、むこせ 街頭演説



声援に答える(左から)むこせ、山下、(右端)大平の各氏 (出雲市)



宣伝する(上段左から)尾村県議、山下氏、(右端)大平氏 (松江市)

日本共産党の山下芳生副委員長・参院議員は12日、松江、出雲の両市で街頭演説し、総選挙で政権交代するために野党共闘の勝利と「比例は共産党」との訴えを広げに広げ、大平よしののぶ前衆議院議員の比例議席奪還を訴えました。

日本共産党が伸びなければならぬ理由の第一に「命を最優先にする党」と挙げた山下氏は、検査を怠り、五輪を強行し、国民に説明もない安倍・菅政権のコロナ対策を批判。戦争に一貫して反対し、大規模災害で救援・復興に当たり、命を最優先にする共産党の躍進を呼びかけました。

さらに「自民党政治のどこをどうチェンジするか示している党」と強調。

中国5県の日本共産党と後援会は18日、市田忠義副委員長・参院議員を迎え、大平よしののぶ前衆議院議員の「比例議席奪還・日本共産党躍進のつどい」をオンラインで開きました。市田氏は「ただちに選挙本番モードに切り替え、公示日までに勝利に必要なことはすべてやり抜き、『比例を軸に』を正面に据えて頑張る」と呼びかけました。

共産党綱領に自民党政治のゆがみの一つとして大企業優先の政治が明記されているとし、石炭火力新増設、原発頼みなど目先のもうけ追求の新自由主義との決別を訴える共産党を伸ばし、「地球を守る選挙にしよう」と力をこめました。

大平氏、むこせ慎一衆院議員2区予定候補が決意表明しました。立憲民主党の亀井亜紀子衆議院議員がメッセージを寄せました。

大平前衆議院議員必勝へ

市田副委員長迎えオンライン集い

中国5県の日本共産党と後援会は18日、市田忠義副委員長・参院議員を迎え、大平よしののぶ前衆議院議員の「比例議席奪還・日本共産党躍進のつどい」をオンラインで開きました。市田氏は「ただちに選挙本番モードに切り替え、公示日までに勝利に必要なことはすべてやり抜き、『比例を軸に』を正面に据えて頑張る」と呼びかけました。

島根原発2号機が原子力規制委員会の審査に正式合格(15日)したことを受け、尾村県議は「規制委自身が『基準を満たすこと』によって絶対的な安全性が確保できるわけではない」と明確に言っている。社会を破壊させる事故が起きる危険が万が一でもあるならば、2号機の再稼働は許されないと迫りました。

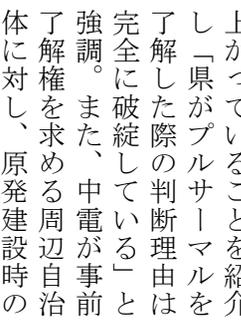
尾村氏は県が2009年3月、2号機のプルサーマル導入を最終的に了解した際の前提条件は、①国による厳格な安全審査②中電における適正な運転の確保にあったと指摘。県民からは「全国最多の不正を続ける中電は信用できない」との声が



尾村県議の一般質問

島根原発2号機が原子力規制委員会の審査に正式合格(15日)したことを受け、尾村県議は「規制委自身が『基準を満たすこと』によって絶対的な安全性が確保できるわけではない」と明確に言っている。社会を破壊させる事故が起きる危険が万が一でもあるならば、2号機の再稼働は許されないと迫りました。

上がったことを紹介し、「県がプルサーマルを了解した際の判断理由は完全に破綻している」と強調。また、中電が事前了解権を求める周辺自治体に対し、原発建設時の水面埋め立てや林地開発の許可権が立地自治体にしかないとの姑息な理由で認めないことにふれ、「再稼働のハードルを上げたたくないことの表れで安全管理体制に自信がないことを自ら認めたようなもの。中電に原発を動かす資格はない」と主張。丸山達也知事は、事故のリスクが存在することを認め、「中電は原発の安全に対する意識が低く、緊張感と責任感が著しく不足していたのではないかと答弁。尾村氏が再質問で「再稼働に同意するかどうかの判断基準に県民の合意があるのか」と質したのに対し、丸山知事は「県民の理解、合意が大切」と答えました。



島根原発再稼働許されないと

大平氏、すみより聡美衆院比例予定候補が決意表明。小松泰信・岡山大学名誉教授、原爆「黒い雨」訴訟原告の高野正明団長が応援メッセージを寄せました。

燃え立つような彼岸花が印象的なその日、手にした一冊、第165回芥川賞受賞作『彼岸花が咲く島』。日本語を母語としない作家、台湾出身の李琴峰氏の作品である▼受賞後のインタビューで小説を書く意味を問われ、「書かずにはおれないものがあるから。そうでなければ好き好んで非母語の日本語で苦勞しながら書くことはしない」と毅然と述べる姿と、その言葉の真意を知るべく、読書の秋の一冊とした▼作品は、ある種ファンタジーの体を取りながら、現代社会が抱える問題を内包する。架空の島の歴史を背景に、ジェンダー、家族、セクシュアリティ等の問題とリンクさせ、新しい社会を自分たちの手で作りあげようとする若者の姿が描かれる。彼らは決して未来だけを見つめ、前に進むことだけを目的とはしない。島の過酷な歴史を学び、背負い、継いでいく者としての使命を抱きながら新しいステージへと踏み出す▼李氏は言う。「ここ数十年の日本の文学は政治に言及したり社会の問題に踏み込んだりすることに抵抗感があるのではないかと。文学の世界だけではない。表現の世界で、そして本来ならそこに切り込むべきジャーナリズムの世界までもが、その「抵抗感」に侵食されてはいなかったらどうか▼コロナパンデミックによってその抵抗感は打ち砕かれてきた。多くの市民が若者が声を上げ、政治を自分の手に取り戻そうとしている。総選挙キックオフ集会で志位委員長が青年に贈った言葉「未来は青年のもの」「青年が動くと、すでに勝利の光あり」を胸にする政治を実現したい。(江)

鼓動

燃え立つような彼岸花が印象的なその日、手にした一冊、第165回芥川賞受賞作『彼岸花が咲く島』。日本語を母語としない作家、台湾出身の李琴峰氏の作品である▼受賞後のインタビューで小説を書く意味を問われ、「書かずにはおれないものがあるから。そうでなければ好き好んで非母語の日本語で苦勞しながら書くことはしない」と毅然と述べる姿と、その言葉の真意を知るべく、読書の秋の一冊とした▼作品は、ある種ファンタジーの体を取りながら、現代社会が抱える問題を内包する。架空の島の歴史を背景に、ジェンダー、家族、セクシュアリティ等の問題とリンクさせ、新しい社会を自分たちの手で作りあげようとする若者の姿が描かれる。彼らは決して未来だけを見つめ、前に進むことだけを目的とはしない。島の過酷な歴史を学び、背負い、継いでいく者としての使命を抱きながら新しいステージへと踏み出す▼李氏は言う。「ここ数十年の日本の文学は政治に言及したり社会の問題に踏み込んだりすることに抵抗感があるのではないかと。文学の世界だけではない。表現の世界で、そして本来ならそこに切り込むべきジャーナリズムの世界までもが、その「抵抗感」に侵食されてはいなかったらどうか▼コロナパンデミックによってその抵抗感は打ち砕かれてきた。多くの市民が若者が声を上げ、政治を自分の手に取り戻そうとしている。総選挙キックオフ集会で志位委員長が青年に贈った言葉「未来は青年のもの」「青年が動くと、すでに勝利の光あり」を胸にする政治を実現したい。(江)